

小児糖尿病サマーキャンプにおける参加状況とその効果

中島・谷 久美子¹⁾ 小西 吉裕^{1,2)*}

1) 美作大学生活科学部食物学科

2) 国立病院機構鳥取医療センター臨床研究部

Entry experiences of diabetic children and young adults in an educational summer camp and its effects on their self-care behavior

Kumiko Tani Nakajima¹⁾, Yoshihiro Konishi^{1,2)*}

1) Department of Food Science, Faculty of Life Sciences, Mimasaka University

2) Department of Clinical Research, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence: ykonishi@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

1 型糖尿病は小児期から思春期に多く、生命維持にインスリン注射が絶対的に必要となる場合が多いため、小児期・思春期からの良好なコントロールが望まれる。小児期・思春期に適切なインスリン療法を確立・継続するのみならず、患者の心身の発達段階などを考慮したきめ細やかな教育・環境が必要となる。今日、全国各地では主として小児を対象とした糖尿病サマーキャンプが行われている。本研究の目的は、このようなキャンプが小児期・思春期発症糖尿病患者の特に精神的な問題にどのような効果を与えているのかを調査し検討することにある。平成 15 年の夏に岡山県小児糖尿病サマーキャンプへ参加した小学 2 年生から高校 1 年生までの全患者 19 人を対象とし、日程終了後にアンケート調査を行った。回答を得たのは 7~15 歳の 16 人で回収率は 84%であった。アンケート調査は、現在の年齢、発症年齢、サマーキャンプ参加への動機、今回のサマーキャンプの内容等に関する 12 の質問から成っていた。その結果、複数回参加している患者が 70%近くあり、アンケート回答者全員がキャンプを通して友達は出来たと答えた。サマーキャンプは友達づくりの場であり、語り合いの場である。その中で、自己管理の方法を学び、相談し合える友達を作ったりすることが可能となり、社会適応性の向上や心理的不安の除去に効果が期待される。鳥取臨床科学 2(1), 72-85, 2009

Abstract

Type 1 diabetes is usually diagnosed in children and young adults. Insulin therapy is essential for the survival of patients having type 1 diabetes; therefore, they are required to regulate their carbohydrate metabolism well by themselves, even if they are young children. In childhood or young adulthood, it is necessary not only to establish and maintain adequate medical therapies with insulin but also to establish careful management, such as education and life environment, considering that they are experiencing physical and mental development. Educational summer camps are held annually for diabetic children and young adults around the world. The present study aims to clarify and consider how such summer camps influence the mental

aspects of diabetic children and young adults. We conducted a questionnaire survey for all the children and young adults who joined a summer camp in Okayama in the summer of 2003. The targets of this survey were 19 participants: the youngest was in the second grade of elementary school, and the oldest was in the first grade of high school. Among them, 84% of participants (n = 16, 7–15 years old) answered the questionnaire, consisting of 12 questions regarding age at present and at onset, reason for participation, and camp events. Seventy percent of the respondents had participated in the summer camp twice or more, and all answered that they had made friends through the camp. A summer camp is a good opportunity to make friends and talk. By participating in summer camps, diabetic children and young adults can learn self-management for diabetes and make friends for help and advice. This may expectedly lead them to improve their social adjustment and remove psychological anxiety. *Tottori J. Clin. Res.* 2(1), 72-85, 2009

Key Words: 1型糖尿病, 小児期・思春期発症糖尿病患者, インスリン療法, 糖尿病サマーキャンプ, 糖尿病自己管理; type 1 diabetes, diabetic children and young adults, insulin therapy, educational summer camp for diabetic children and young adults, self-management for diabetes

1. はじめに

一口に「糖尿病」といっても食事療法だけで血糖のコントロールが可能なものから、インスリン注射を必要とするもの、また乳幼児から高齢者までと様々である。日本人の糖尿病はほとんどが成人になってから発症する2型糖尿病であるため、現在の日本の社会において、小児期から思春期に発症することの多い1型糖尿病に対する理解や認識はあまりないように思われる。

1型糖尿病は、膵臓のβ細胞が破壊されることによって、通常はインスリンが絶対的に欠乏する。また、遺伝との関係は2型より低く、ウイルス感染や自己免疫が関与していると考えられている。典型的には急激に発症し、生命維持のためにインスリン注射が絶対必要になる。そのため、小児期・思春期からの良好な血糖のコントロールが望まれ、1日に4~7回、自分の血糖を測定し、それに基づきインスリンを1日に2~4回注射をしなければならず、学校生活においては患者自ら注射することを余儀なくされる場合も少なくない。小児期・思春期の治療にあたっては、適切なインスリン療法を指示するのみならず、患者の心身の発達段階などを考慮したきめ細やかな教育(療育)・環境が重要となる。患者の中には「自分だけがコントロールを強要

されているのではないか」という孤独感やストレスなどがあり、自分の身体に対して強い劣等感や、低血糖発作、将来の合併症、進学、就職、結婚などに大きな不安を抱き悩んでいることが少なくない。

そこで、このような状況を踏まえて、全国各地では主として小児を対象とした糖尿病サマーキャンプ(以下、小児糖尿病サマーキャンプ)が行われている。本研究は、このようなキャンプが小児期・思春期発症の糖尿病患者の特に精神的な問題にどのような効果を与えているのかを調査し検討することを目的とした。

2. サマーキャンプについて

世界初の糖尿病サマーキャンプは1925年に米国デトロイトで開催された。インスリンが発見されて4年後のことであった。ヨーロッパではイギリスで1935年に開催されたのが最初である。現在ではアジア諸国でも多数開催され、韓国では1981年、フィリピンでは1982年、インドでは1983年、中国では1984年、タイでは1989年を最初として始められている。

日本では、1963年(昭和38年)に東京で第1回目が開催され、2002年に40周年を迎えた。現在、小児糖尿病サマーキャンプは全国各地で開催されている。実施キャンプ数、参加人数とも、